

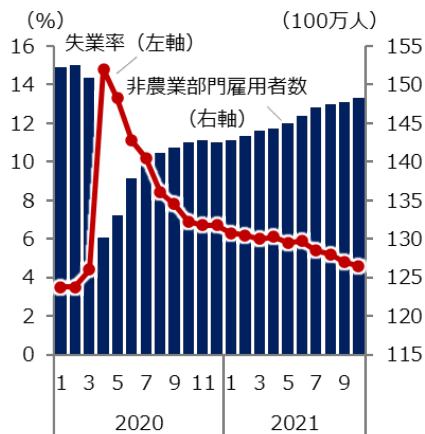
米国

雇用統計 (2021年10月)

感染鈍化で雇用回復が進むなか、人手不足感も強まる

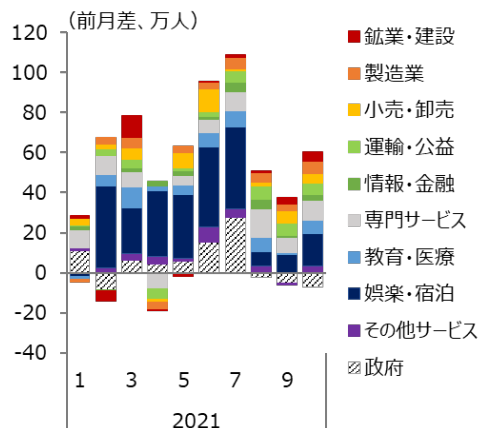
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 失業率・非農業部門雇用者数



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

2 産業別雇用者数



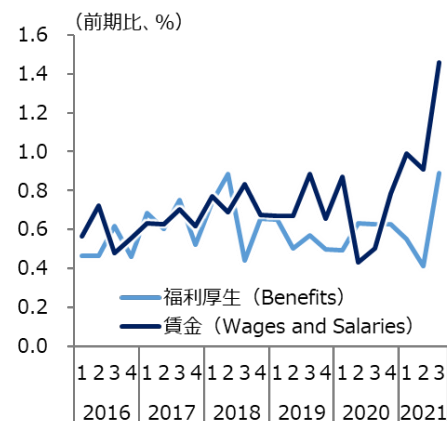
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

3 人手不足への企業の取組事例 (10月地区連銀経済報告より抜粋)

雇用環境	<ul style="list-style-type: none"> 労働供給不足から労働市場は逼迫 小売業やサービス業、製造業では人手不足で営業時間や生産を縮小 好待遇を求める転職や、育児問題・ワクチン接種義務化から離職増加
企業の取組事例	<ul style="list-style-type: none"> 初任給や賃金の引き上げ 採用や契約更新時のボーナス支給 健康保険などの福利厚生拡充 業務見直しや自動化の推進 オフショアリング(業務の海外委託)の検討開始

出所：FRB地区連銀経済報告より三菱総合研究所作成

4 雇用コスト指数 (四半期)



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 10月の非農業部門雇用者数は前月差+53.1万人と堅調に推移した(図表1)。また、8月分は同+19.4万人から+31.2万人へ修正された。これにより、失業率(失業者数/労働力人口)は、4.6%と前月(4.8%)から低下した。
- 一方で非労働力人口は前月差+3.8万人と2カ月連続増加、労働参加率は横ばいの61.6%と、20年2月の63.3%を下回った状態が続いている。
- 産業別では政府部門を除く全ての産業で増加、過去2カ月低調な伸びにとどまった娯楽・宿泊も再び伸びが加速した(図表2)。
- 10月の時間当たり賃金は、前月比+0.4%と引き続き上昇、特に人手不足が深刻な娯楽・宿泊業では同+1.0%と大きく上昇した。

基調判断と今後の流れ

- 米労働市場は、デルタ株の感染拡大の一服や新学期の開始などにより、回復が再加速している。
- ただし、労働需要に対して供給は不足、労働市場が逼迫した状態が続いている。労働参加率の回復は依然遅く、人手不足は当面続く見込み。
- 10月のFRB地区連銀経済報告でも、多くの企業で人手不足の問題が指摘され、待遇改善など人手不足解消への取組事例が多々紹介された(図表3)。
- 初任給や既存従業員の賃金引き上げのほか、福利厚生の拡充など非賃金報酬の拡充による人材確保に力を入れる企業も多く、先月29日に公表された21年7-9月期の雇用コスト指数は賃金・福利厚生ともに前期比で大きな伸びを見せている(図表4)。
- 11月FOMC後のパウエル議長の記者会見の中では、実質賃金が伸びていないことから賃金上昇スパイラルは起きていないとの見方が紹介された。ただし、人件費上昇は原材料価格高騰とともに物価押し上げ圧力となり、FRBの利上げ判断にも影響するため、今後も雇用者数の変化と併せて注視する必要がある。